

【オンライン配信】 基本から学ぶ発達障害（神経発達症）
～病気？個性？どちらも違います～

*日本臨床心理士資格認定協会「短期研修機会(ワークショップ)」承認番号:W29111 承認期間:2017年7月1日~2022年6月30日
*特別支援教育士[S.E.N.S]、特別支援教育士スーパーバイザー[S.E.N.S-SV] 更新ポイント認定講座 承認番号:S.E.N.S 第21-073号
(2021年度 S.E.N.S 資格更新該当者の申請受付の日程上、2021年度の更新には間に合いません。予めご了承ください。)

期 日：2022年2月9日(水)、12日(土)のどちらかのご希望日

※ご希望日を必ず通信欄にご記入・ご入力ください

受講対象：発達障害児・者に携わる先生方・専門職、行政職、団体職員、ボランティア等

申込期限：2022年2月2日(水) (お申込みは先着順ですが、期限前に募集を終了する場合がございます)

受講料：6,500円(税込み)

配信方法：『Cisco Webex』を使用し、配信 ※事前承認制です

本講座は1月22日(土)の【講座No.21204】をビデオ収録し、上記日程でオンライン配信する講座です

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

東京都豊島区高田3-19-10

*** <企画および講義> *** 宮本 信也 先生：白百合女子大学 副学長 ***

私たちは、誰でも生まれながらに一定の特徴を持っています。例えば、ある人は2、3歳の頃から活発であったり、また別の人は赤ちゃんの時からおとなしかったりなど、そうした特徴は人によって多様です。このように、その人その人が生まれつき持っている一定の行動特徴を気質と呼びます。気質は、いわゆる性格の土台になります。

一方、ある年代であることができるようになる、それまでよく分かっていなかったことが分かるようになるなど、人の子どもの発達には、ほとんどの子どもがほぼ同じように持っている特徴があります。例えば、ほとんどの子どもは1歳~1歳半の間で意味のある言葉を話すようになりますし、3~4歳で役割遊びをするようになります。また、教育は必要ですが、今の時代であれば、多くの子どもは、6~7歳でひらがなを読めるようになります。

このような、ほとんどの子どもが示す発達における一定の特徴を定型発達特性と呼びたいと思います。そして、そうした定型的な発達特性とは異なる発達の特徴(非定型発達特性)を持つ子どもたちがいます。例えば、2歳になっても言葉を話さない、4歳なのに一人遊びが中心で他の子どもには関心を全く示さない、みんなと同じように教えてもらっているのに文字を読むのがたどたどしいなどです。

発達障害とは、そのような非定型発達特性があり、そのために日常生活や社会生活においてさまざまな困難を抱えている状態をいいます。発達障害のある子どもは、非定型発達特性のために、定型発達の子どものほうがあまり苦勞することなく習得できることがなかなか身につかなかったり、ちょっと教えてもらおうと理解できることの理解が難しかったりします。こうした状況を適応スキルの習得や習熟の困難と呼びます。そして、適応スキルの習得や習熟が困難なため、そのスキルを必要とする事柄がうまくできず、生活上のさまざまな困難が生じることになるのです。発達障害とは、そうした困難のために困っている状態のことです。発達障害児ではなく、発達障害の状態にある子どもととらえる視点が大切だと思います。この視点に立つならば、支援が目指すのは、子どもが困っている状態の改善であり、非定型発達の改善つまりは子ども自体を変えることではないということも理解されると思います。

この講座では、発達障害を適切に理解することの重要性、そして、適切な理解の上に立った支援について解説します。

【宮本 信也】

【プログラム】

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。予めご了承ください。

	時 間	テ ー マ
各 日	12:50~	オンライン講座の事前案内
	13:00~14:00	<オンライン> 発達障害とは
	14:10~15:10	<オンライン> 行動問題を主とする発達障害 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症
	15:20~16:20	<オンライン> 成績問題を主とする発達障害 知的発達症、コミュニケーション障害、限局性学習症、発達性協調運動症
	16:30~17:30	<オンライン> 発達障害への支援 / 発達障害の多様性